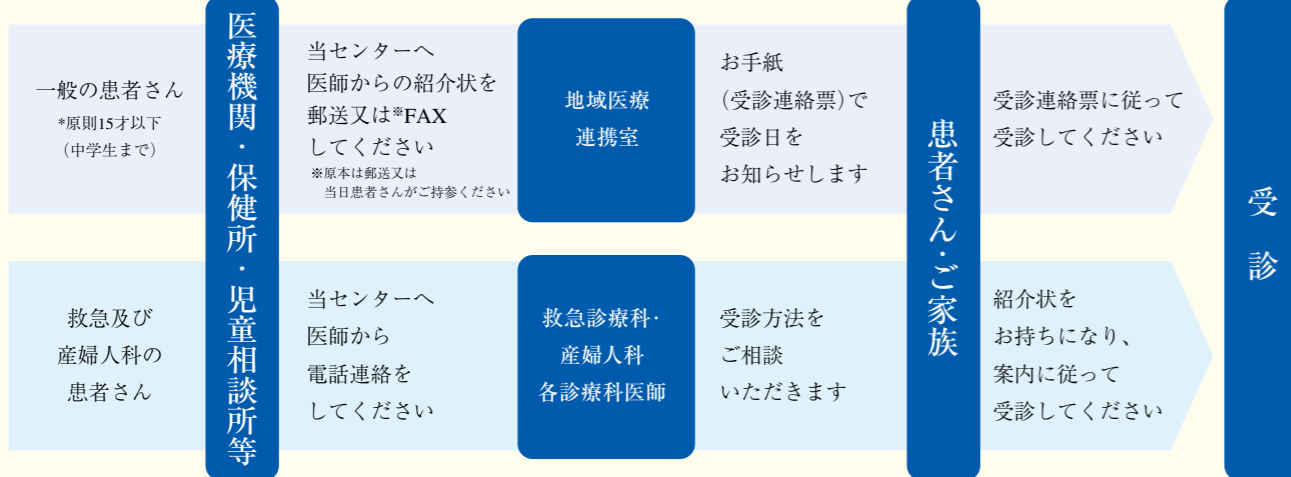




地域医療連携室だより

【紹介予約受診システム】

当センターは、医療機関や保健所等の医師からご紹介いただいた患者さん原則 15才以下(中学生まで)が、初診の予約をお取りになり受診していただく「紹介予約制」を取らせていただいております。予約の方法・手続きにつきましては下記をご覧ください。



※ 紹介状の添付資料(紹介状の添付資料(画像CDやフィルム等)も紹介状と併せて事前にお送りください。

※ 紹介状用紙(料金受取人払)の送付をご希望の場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

新患予約枠 (2021年7月現在)

新患は、ほとんどの診療科が午前の診察(☆は午後のみ)になります。また、疾患や年齢により曜日、時間が決まっている診療科もあります。詳しくは、地域医療連携室までお問合せください。

総合診療部門	月	火	水	木	金
総合診療科	○	○	○	○	○
内科系診療部門	月	火	水	木	金
感染免疫科				○ 第1・3	
血液・腫瘍科	○	○	○	○	○
アレルギー科			○		
腎臓内科				○ 第2・4・5	
遺伝科☆					○
内分泌代謝科	○	○	○	○	○
循環器内科	○	○	○	○	○
神経内科	○	○	○	○	○

外科系診療部門	月	火	水	木	金
外科		○		○	
整形外科	○		○	○	○
形成外科		○		○	○
脳神経外科		○		○	○
心臓血管外科					○
泌尿器科	○		○		○
皮膚科	○		○	○	○
眼科	○	○	○	○	
耳鼻咽喉科		○	○		○
歯科	○	○	○	○	○

こころ医療部門	月	火	水	木	金
児童思春期精神科	○	○	○	○	○

周産期医療部門	月	火	水	木	金
産婦人科	○	○	○	○	○
新生児科		○	○	○	

技術部門	月	火	水	木	金
言語聴覚科		○			

外来	月	火	水	木	金
偏食外来☆					○

かながわこども医療ネット

神奈川県立こども医療センター 地域医療連携ネットワーク

「かながわこども医療ネット」は、こども医療センターの電子カルテ情報(処方歴、注射歴、検査結果、画像)をインターネット経由で連携先医療機関に公開するシステムです。

※連携先医療機関を随時受け付けています。申込みは地域医療連携室までご連絡ください。

※閲覧にはネットワークの連携、患者様の同意が必要になります。

【編集・発行】 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 地域医療連携室

〒232-8555 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-138-4 TEL: 045-711-2351 (代) FAX: 045-710-1933

Home Page: <http://kcmc.kanagawa-pho.jp>



“ひだまり”と“つばさの木”をどうぞ よろしく!!

障害児入所施設局長 兼 重症心身障害児施設長 井合 瑞江



神奈川県立こども医療センターには病院と福祉施設が併設されています。センター開設50周年を迎えた昨年(2020年)、福祉施設の愛称を募集し、表題のように重症心身障害児施設と肢体不自由児施設の愛称が決まりました。子どもたちが元気に育つ医療と療育の場として、それぞれ機能してきましたが、ここ半世紀の世の中の変化は加速度的なものです。利用者・ご家族とともに医療機関や近隣の方々にとっても、より身近で親しみやすい、気持ちに寄りそった頼れる施設をめざしていこう!という思いをこめています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、ここからは重症心身障害児施設“ひだまり”をご紹介します。

■何する所?

入所時18歳未満の対象児(一人で歩けない+発達に遅れあり)、40床で長期入所・短期入所支援を行っています。不適切な療育環境など社会的理由で家庭ですぐすことが難しい場合、またはご家族の病気や母の出産などで30日をこえて施設利用をする場合も長期の対象となり児童相談所が関わります。入所後生涯施設ですぐす子どもたちにとって安全・安心・豊かに育ちゆく場を担います。短期はご家族のレスパイト、兄弟の行事、引越、冠婚葬祭など30日以内の利用で施設に直接申し込んでいただく在宅支援です。低年齢、医療的ケアが重い場合もご利用ください。

■どんな所?

“ひだまり”の居室は酸素や呼吸器、吸引、モニター類など病院と同じ装備があります。プレイルームにはグランドピアノやトランポリンがあり、小さなプール、ブランコや花木豊かな広い庭につながります。天気の良い日は陽だまりの中で楽しめる贅沢な空間です。施設内に県立南養護学校の教室もあります。

■どんな生活?

学齢児は学校へ、未就学/卒後児者は支援課中心の日中活動に参加します。コロナ下で面会や行事の制限が続いていますが多職種で協力して実りある生活時間を送れるよう努めています。HPを是非ご覧ください。

ご家庭での困りごと・重症心身障害児について等、どうぞご相談ください。連携室または施設の生活支援課で対応してまいります。お子さんご家族にとって“ひだまり”となるよう職員一同努めてまいります。今後ともより一層のご支援のほど、どうぞお願い申し上げます。

ひだまりHP: <https://jyuusin.kcmc.jp/>



肢体不自由児施設(愛称:つばさの木)について

肢体不自由児施設長 兼 整形外科部長 中村 直行



「療育」という言葉の下、全国で整備が進んだ肢体不自由児施設。中でも、当院のように、全国有数の小児専門病院に肢体不自由児施設が併設されているのは稀であり、設立当時の先見の明に驚きます。

肢体不自由児施設は、治療に長期を要する運動器疾患の患児達に、バリアフリーの生活環境と途切れのない義務教育の提供を可能とする、大変優れた施設です。これまでも重篤な脊柱変形や股関節疾患、下肢変形などに罹患した数多くのこどもたちが、この施設を利用して元気よく退所していきました。特に、ペルテス病の治療成績は国内でも群を抜く好成績を示しています。

施設での生活は、学生時代の合宿を思い出していただければほぼ当てはまります。基本的に男女別で、同年代毎に6名前後で部屋を割り振っております。起床、朝食、身支度、登校(施設の隣が養護学校なので、実質50m程です)、授業、リハビリテーション、下校、入浴、夕食、自学、就寝といった日常生活をルールに基づいてこなしていきます。治療施設でありながら、生活施設でもあるところが肢体不自由児施設の特徴となります。こどもたちは、様々な疾患を抱えながら、お互いを思いやったり、テスト勉強に追われたり、中高生ならではのムズキュンもあったりするようです。そのような日々を、教員、支援課職員などが医療以外の場面を支えています。

しかし、当施設も、1970年に開設されてから早50年を経ています。長年、教育と医療の共存を支えてきた本施設も、今、過渡期と言えます。

この20年、子供たちのおかれている環境は大きく変化しました。自宅での個室化、教育競争の激化、デジタル文化の普遍化等の変化に対して、当肢体不自由児施設は対応がまだ不十分な状況です。特にデジタルネイティブと言われる今のこどもたちに、時代に即した環境を提供できるように日々検討を重ねています。

そのような現状ではありますが、入所する子供たちが少しでも笑顔で充実した毎日をご過ごせるように、スタッフは一丸となって、医療、教育のみならず、季節行事などを取り入れながら、生活の支援を今後も行っていく所存です。



つばさの木:七夕の飾りをしました



つばさの木:全部で7部屋あります



部屋には鳥の名前がついています

施設の愛称「ひだまり」「つばさの木」が決まるまで

生活支援課長 荒井 伸成



「施設の開設50周年を記念するイベントを考えましょう」と、重症心身障害児施設の井合施設長と肢体不自由児施設の中村施設長の間でお話があったのは、今から約2年前のこと。参加するみなさんが「ワクワク」して、「夢が持てるもの」という中で検討した結果、施設の愛称を作りましょうと決定しました。

こども医療センターのホームページやエフエム戸塚の福祉情報発信番組「Radio Familiar」での広報、センター内でのチラシ配布やポスター掲示等による愛称募集等を行い、応募期間に計98件ものご応募を頂きました。ありがとうございました。どの応募作品もすばらしく、夢があり施設のイメージが広がるものばかりでした。事務局としてスケジュールに追われながら集計作業や調整等を行い慌ただしい時間でありましたが、今振り返ると、応募作品を見ながら私自身がワクワクして一番楽しい時間を過ごしたように思います。

採用された二つの作品「ひだまり」「つばさの木」は、いずれも施設を利用しているお子さんの応募であったことも、とてもうれしい結果でした。(選考委員には名前は伏せて作品のみで選考して頂きました)表彰式では、お二人とも緊張しながらも晴ればれとしたお姿がとても印象的でした。

最後に、エフエム戸塚の相浦さんを始め多くの方々のご協力を頂き、素敵な施設の愛称を決めることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

みなさん、「ひだまり」「つばさの木」と大きな声で言ってくださいね。



ひだまり:季節の花が咲きます



ひだまり:ブランコ楽しいです



ひだまり:前庭でシャボン玉をしました